

尼崎の環境 - 平成28年度版 - (概要版)

表記の説明

- 😊…改善傾向・目標値を達成/取組が大きく進んだ
- 😐…横ばい/取組が進んだ
- 😞…悪化傾向/取組が進まなかった

目標1 低炭素社会の形成

現状



対象	目標値	平成25年	平成26年	前年度との比較
二酸化炭素排出量	3,361	3,551	3,253	↘

平成27年度の主な取組

- ・尼崎版スマートコミュニティの認定・取組の支援
- ・燃料電池自動車の普及や水素社会の実現に向けたシンポジウムの開催
- ・小学校などの公共施設への太陽光発電設備の導入
- ・公共施設の屋根貸しの実施

評価と今後の取組の方向性

・二酸化炭素排出量は減少傾向にあり、平成26年の推計値（速報値）は目標を達成していることから、部門別の課題を解決しつつ、現状の取組を基本として更なる改善に取り組みます。なお、平成26年度の市の取組による削減量は31,197 t-CO₂（再生可能エネルギー関連：27,222 t-CO₂、省エネルギー関連：3,974 t-CO₂）でした。

・太陽光発電設備の着実な普及拡大がみられることから、今後は、排出量が高止まりしている民生家庭部門への対策としてスマートハウスに関連した機器の普及に取り組むほか、増加傾向にある民生業務部門への対策として省エネ設備の導入に向けた検討も進めています。

目標4 多様な生き物の生息環境の保全

現状

・地域のほとんどが市街化されており、山地がない一方で、西部には武庫川、東部には猪名川・藻川、中央部には庄下川・蓬川が流れるなど水辺環境にはめぐまれているといえます。

・尼崎21世紀の森構想や21世紀の尼崎運河再生プロジェクトなどにより臨海部において緑や水辺に触れることのできるイベントが多数行われています。

平成27年度の主な取組

- ・生物多様性の考え方を取りまとめたガイドラインの検討
- ・尼崎21世紀の森構想の実現に向けた「森の会議」の開催

評価と今後の取組の方向性

・ガイドラインの策定に引き続き取り組みます。

・尼崎市の自然の豊かさを市内外に知ってもらうために、尼崎の身近な自然写真展入選作品をまとめた写真集を作成します。

・生物多様性の考え方の浸透を図るため、ガイドラインの周知を図るとともに、市の事務事業における生物多様性の取組状況を評価する仕組みについて検討していきます。

目標2 循環型社会の形成

現状



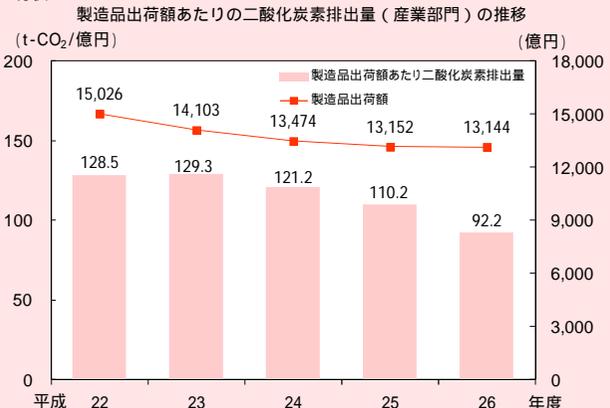
対象	目標値	平成26年度	平成27年度	前年度との比較
焼却対象ごみ量	136,299	138,217	137,473	↘

平成27年度の主な取組

- ・小型家電のリサイクルの開始
- 評価と今後の取組の方向性
- ・焼却対象ごみは目標達成に向けて順調に減量・リサイクルが進んでいるため、現状の取組を基本として更なる改善に取り組みます。
 - ・家庭ごみを削減するため、小学生のごみに対する意識づくり、日常生活におけるごみ出し方法の周知やスーパー等との連携によるマイバッグ運動など生活の幅広い分野での啓発に取り組みます。
 - ・全国的な課題となっている食品ロスへの対応について検討を行います。

目標5 環境と経済の共生

現状



対象	平成25年度	平成26年度	前年度との比較
製造品出荷額あたりの二酸化炭素排出量	110.2	92.2	↘

平成27年度の主な取組

- ・産業振興基本条例の理念に沿った取組を行うための産業振興施策の再構築
 - ・あまがさき環境オープンカレッジとの協力によるエコ社会見学ツアーの実施
- 評価と今後の取組の方向性
- ・製造品出荷額あたりの二酸化炭素排出量（産業部門）は減少しており、現状の取組を基本として更なる改善に取り組みます。
 - ・市内中小企業の販路拡大を図るため、展示会等への出展支援に取り組みます。

目標3 安全で快適な生活環境の保全

現状

環境基準の達成状況

対象	目標値	平成26年度	平成27年度	前年度との比較
大気	100	87.7	89.2	↗
水質(河川・海域)	100	96.6	97.6	↗
水質(地下水)	100	99.0	99.0	→
騒音(自動車)	100	97.4	97.9	↗
騒音(航空機)	100	100	100	→
騒音(新幹線)	100	79.2	83.3	↗
ダイオキシン	100	100	100	→

[単位%]

平成27年度の主な取組

- ・「尼崎公害患者・家族の会」に対する感謝状の贈呈
- ・公共施設におけるアスベスト建材の管理方法の啓発・手引きの作成
- ・井戸（地下水）の利用に関する調査
- ・自動車や航空機、新幹線に関する要望活動

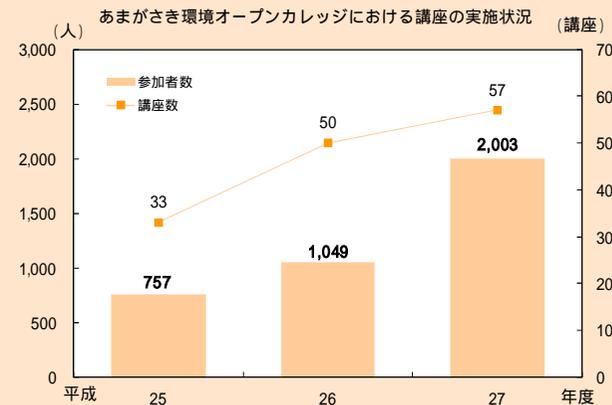
評価と今後の取組の方向性

・本市の測定局において初めてPM2.5の環境基準を達成するなど、環境質は前年度と比較して改善傾向にあるため、現状の取組を基本として更なる改善に取り組みます。

・井戸（地下水）の利用に関する調査が終了した地域については、土壌汚染対策などに活用します。

目標6 環境意識の向上・行動の輪の拡大

現状



対象	平成26年度	平成27年度	前年度との比較
参加者数	1,049	2,003	↗
講座数	50	57	↗

[単位 講座数：講座、参加者数：人]

平成27年度の主な取組

- ・新たな人材の発掘や環境活動団体どうしの連携を進めるための講座の実施
- ・本市HPにおける市内の環境活動団体の情報発信
- ・環境に関する講座・イベントの情報をもとめた「あまがさき通信」の発行

評価と今後の取組の方向性

・講座の開催数・参加者数ともに増加しているため、現状の取組を基本として更なる改善に取り組みます。

・講座内容として取組が遅れていた生物多様性や公害について学ぶ機会の充実に取り組みます。

・活動の輪をさらに広げるための団体間連携の促進や新たな取組への参加者を増やすため、環境活動初心者講座や環境活動団体ミーティングの内容の充実に取り組みます。